

この間渦パターンCは山陰地方に入って不明りょうとなったが、小規模の渦が次々と発生しかなりの雪を降らした。トランスバースモードの雲もくずれはじめ、日本海北西部は通常の筋状の雲に変化した。

1月29日には強い冬型気圧配置となって、山雪型の典型的な筋状の雲が支配し、渦パターンAは500 mbの正渦度・地上低気圧とともに津軽海峡東方に移動しつつある(写真6)。

以上に示したケースは、3つの渦パターンが共存した点がやや特異であるほかは典型的な寒気吹き出しの変化過程の例であり、実際にはこれに多少のvariationが加わる。この例から次の2点に注目したい。

第1に3つの渦パターンの違いである。渦パターンAは発生期は地上・上層の循環と対応しないが、寒気吹き

出しの中期以後には対応して発達する。Bは地上低気圧にともなうもので寒気吹き出しの先駆的性格をもつ。CはBが東進後寒気吹き出しの中期(里雪型期)までにみられるもので、地形なども密接に関係し大雪をもたらすため、多くの人が調査している。冬期日本海には他にもいろいろの渦パターンがみられるが、以上の3つは代表的なものである。

第2に注目したいのは、このような各種渦パターンやその他の雲システムには、発生時期や発達衰弱に一定の順序があり、かつ互いに関係しあっているため、それぞれの性格を知るには、おのおのを単独で調べるのではなく寒気吹き出しのライフサイクル全体の中でとらえ、正しく位置づける必要がある点である。このことは予報の現場においても、留意すべき事項である。

## 日本気象学会昭和58年春季大会の告示

### 1. 期 日

5月18日(水)～20日(金)

### 2. 会 場 研究交流センター

(茨城県新治郡桜村竹園 2-20-3)

Tel. 0298-51-1331

### 3. 研究発表

1) 講演申込・予稿原稿の締切 2月25日(金) 必着  
期限厳守のこと

2) 申込先: 東京都代千田区大手町 1-3-4 気象庁  
電子計算室内 講演企画委員会(多田一

正)

3) 様式: 本号挿入の申込用紙に記入, 予稿原稿を添えて申し込むこと。原稿用紙は本誌挿入のものを使用すること。詳細は次頁の講演予稿集原稿の書き方をご覧ください。

4) 講演時間: 討論を含め12分程度

講演時間は事情により短縮されることがあります。

シンポジウム 大気境界層について——タワーと風洞に関連して

(1158頁より続く)

表面波の分散と地下構造

未発表

松原竹男

北太平洋及び熱帯海域における中・深層水と化学成分との関係

未発表

中代 誠

天空散乱光の性質に関する研究

未発表

佐々木秀孝

マイクロコンピュータの製作と利用

未発表